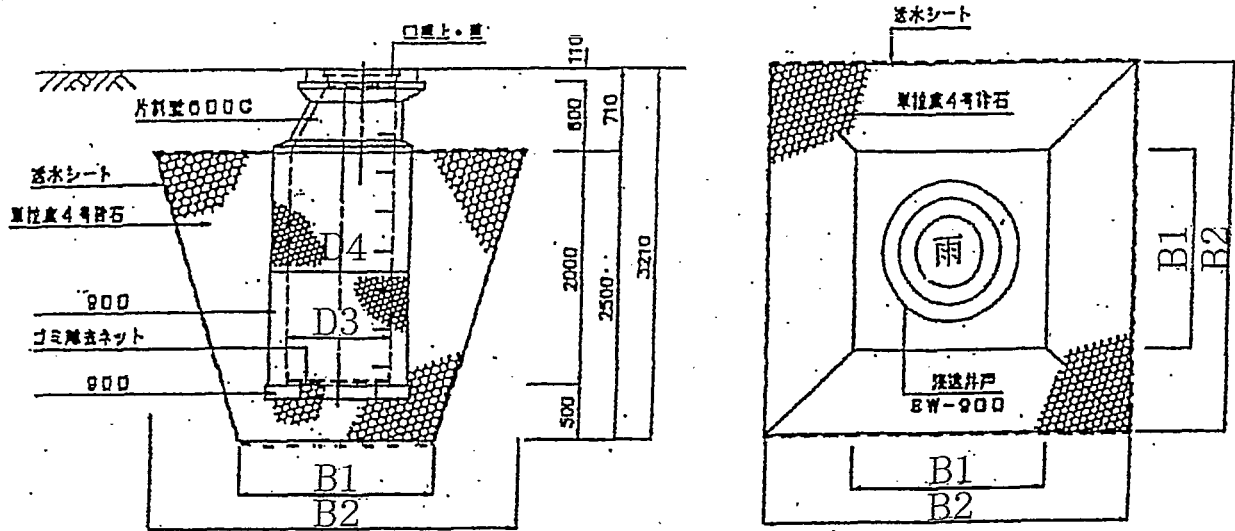


第2号様式

浸透槽参考図

1 浸透人孔の場合



(m)

呼称	B1	B2	D3	D4
1号人孔	1.7	3.0	0.9	1.2
2号人孔	2.0	3.4	1.2	1.5
3号人孔	2.3	3.8	1.5	1.8

浸透人孔の参考貯留容量 V (m³)

1) 1号人孔

$$V = 0.9^2 \times \pi / 4 \times 2.0 + \{ 2.5 / 3 (1.7^2 + 3.0^2 + \sqrt{1.7^2 \times 3.0^2}) - 0.9^2 \times \pi / 4 \times 2.0 \} \times 0.3$$

$$= 5.137 = 5.1 \text{ (m}^3\text{)}$$

2) 2号人孔

$$V = 1.2^2 \times \pi / 4 \times 2.0 + \{ 2.5 / 3 (2.0^2 + 3.4^2 + \sqrt{2.0^2 \times 3.4^2}) - 1.2^2 \times \pi / 4 \times 2.0 \} \times 0.3$$

$$= 7.172 = 7.1 \text{ (m}^3\text{)}$$

3) 3号人孔

$$V = 1.5^2 \times \pi / 4 \times 2.0 + \{ 2.5 / 3 (2.3^2 + 3.8^2 + \sqrt{2.3^2 \times 3.8^2}) - 1.5^2 \times \pi / 4 \times 2.0 \} \times 0.3$$

$$= 9.590 = 9.5 \text{ (m}^3\text{)}$$

2 樹脂製浸透ブロックの場合

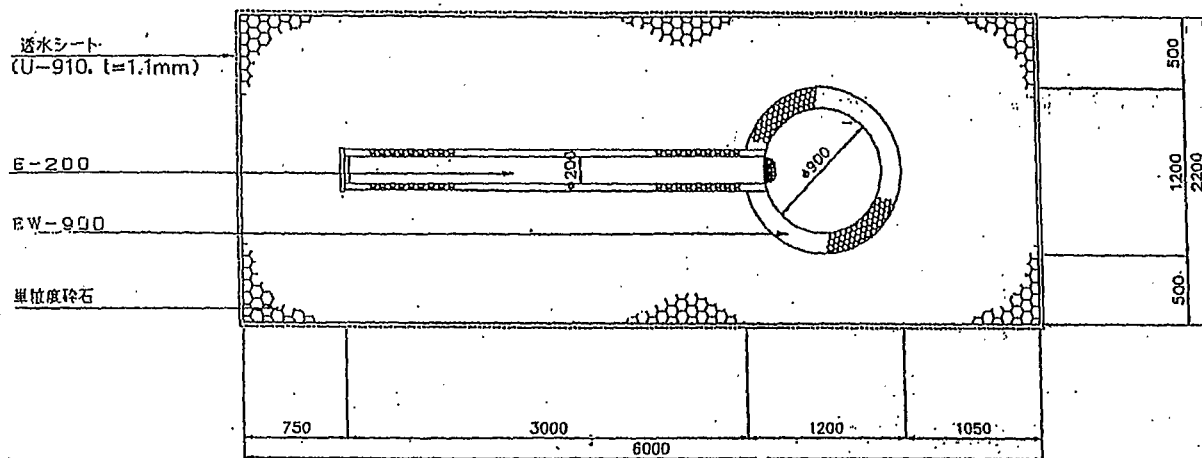
樹脂製浸透ブロックの構造

各メーカーの仕様による

樹脂製浸透ブロックの貯留容量 V (m³)

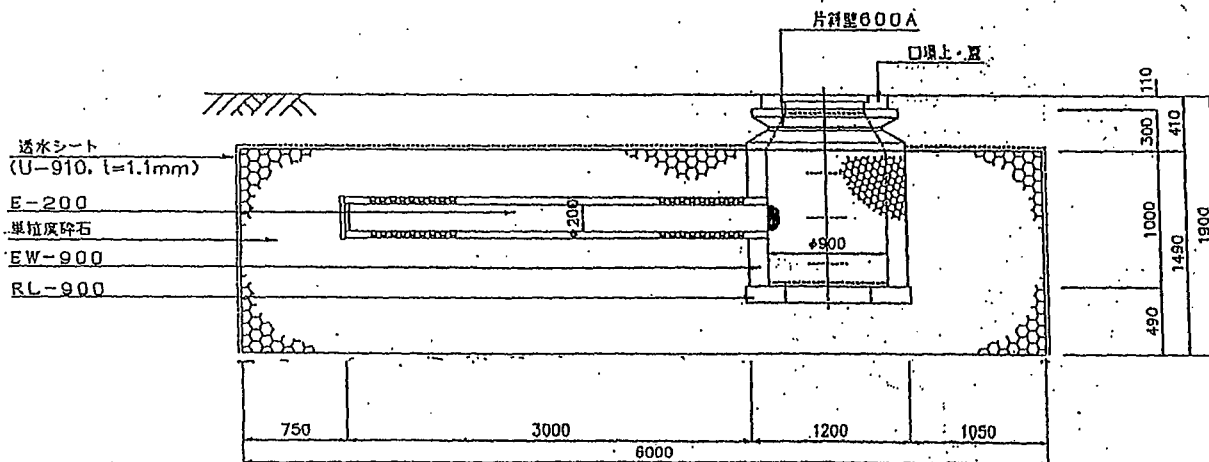
空隙率を乗じた各メーカー仕様の容量

浸透槽EW-900平面図 s=1/40

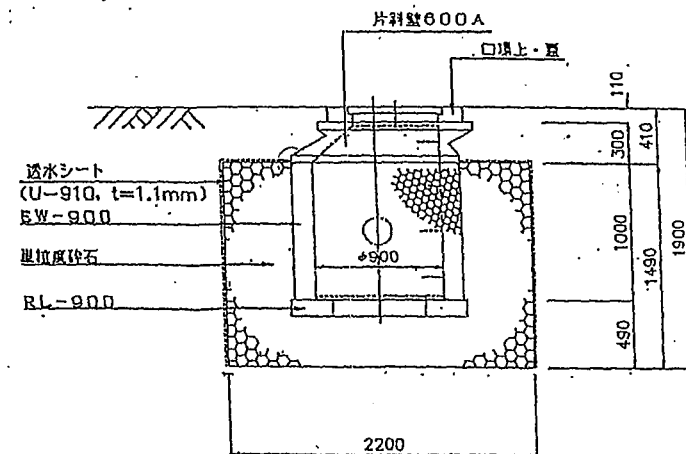


浸透施設の貯留量 5.5t > 5.1t ... OK

浸透槽EW-900構造図 s=1/40



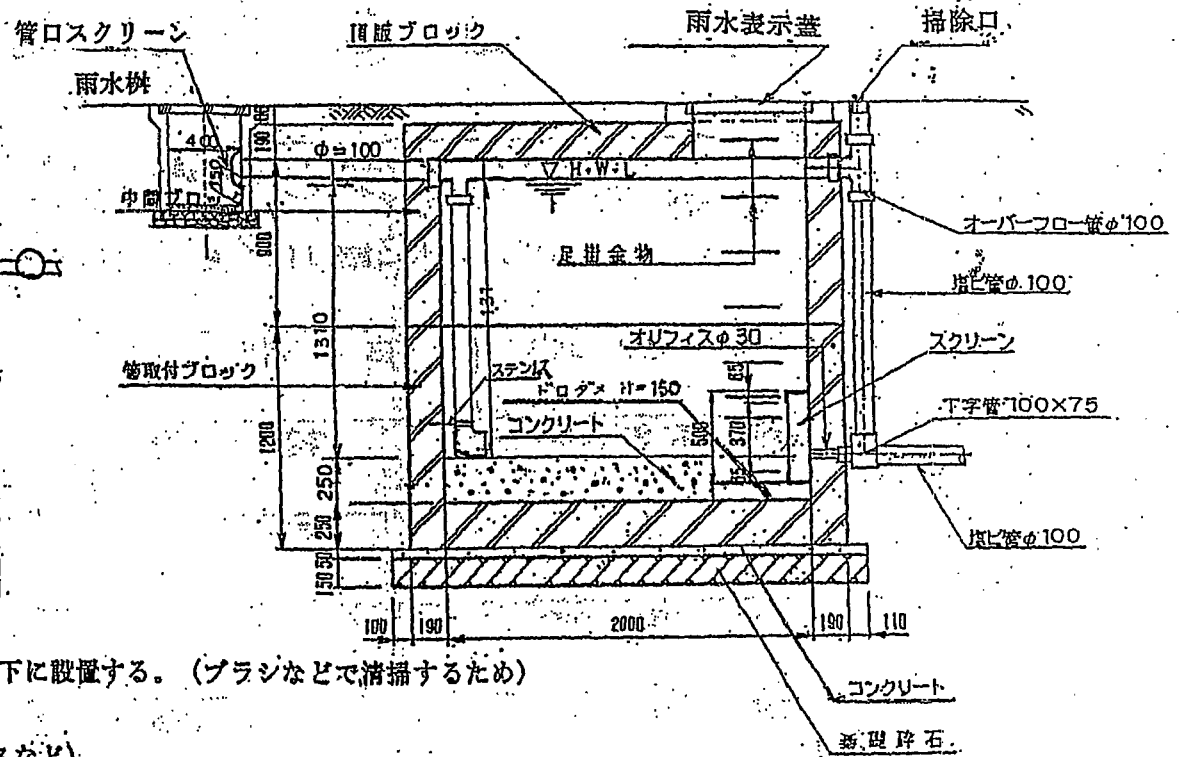
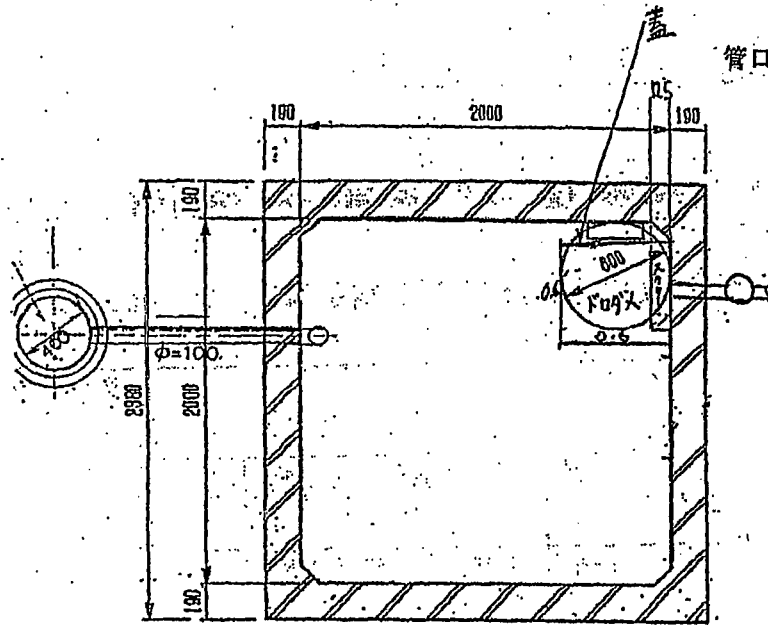
浸透槽EW-900構造図 s=1/40



第3号様式
調整槽標準図 (1号浸透人孔対応容量)

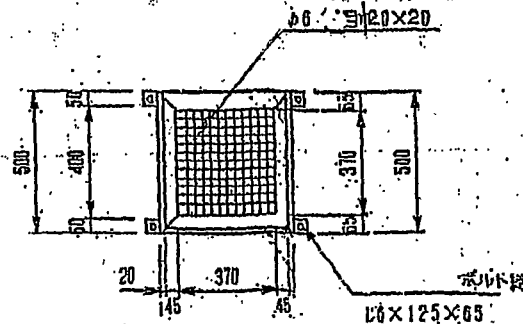
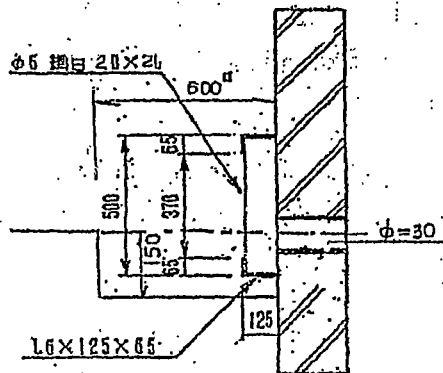
断面

平面



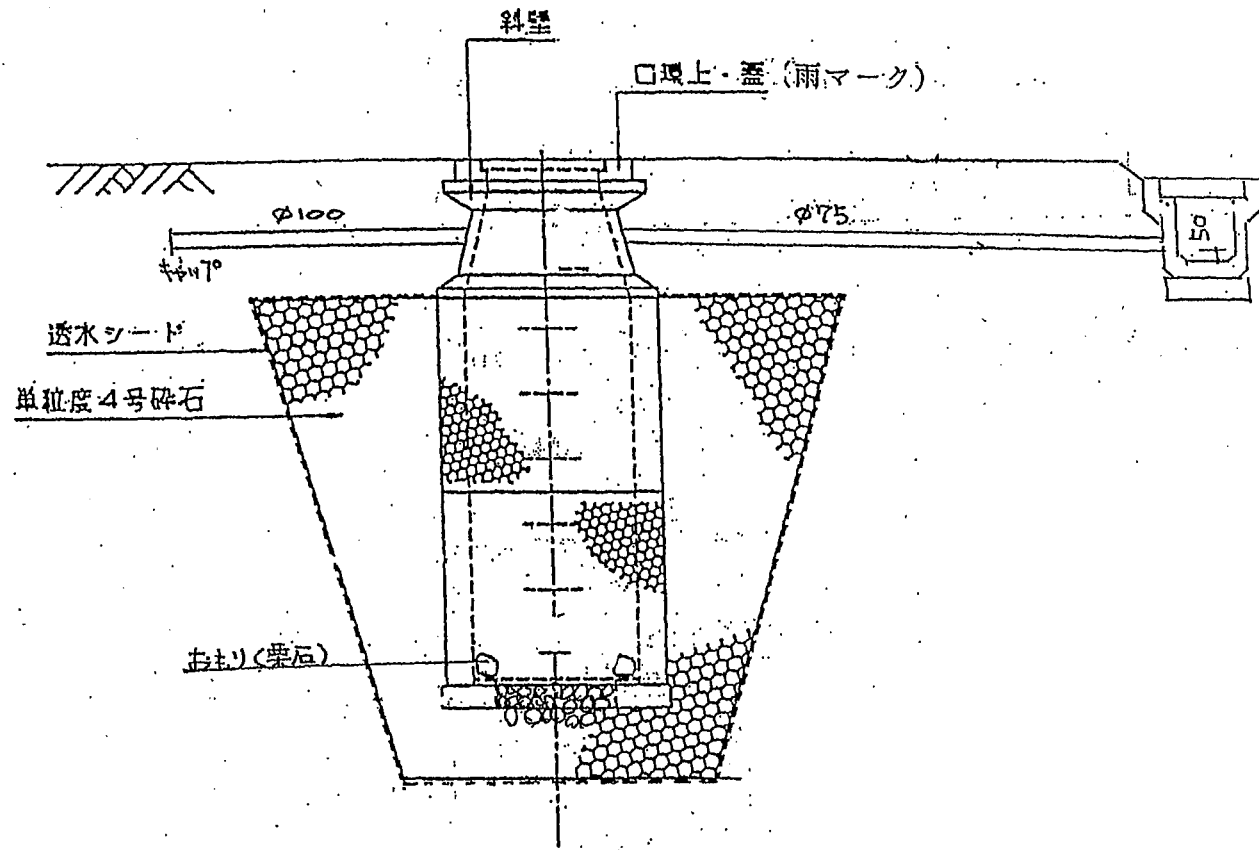
※オリフィス孔は管理口の下に設置する。(ブラシなどで清掃するため)

オリフィススクリーン (ステンレスなど)

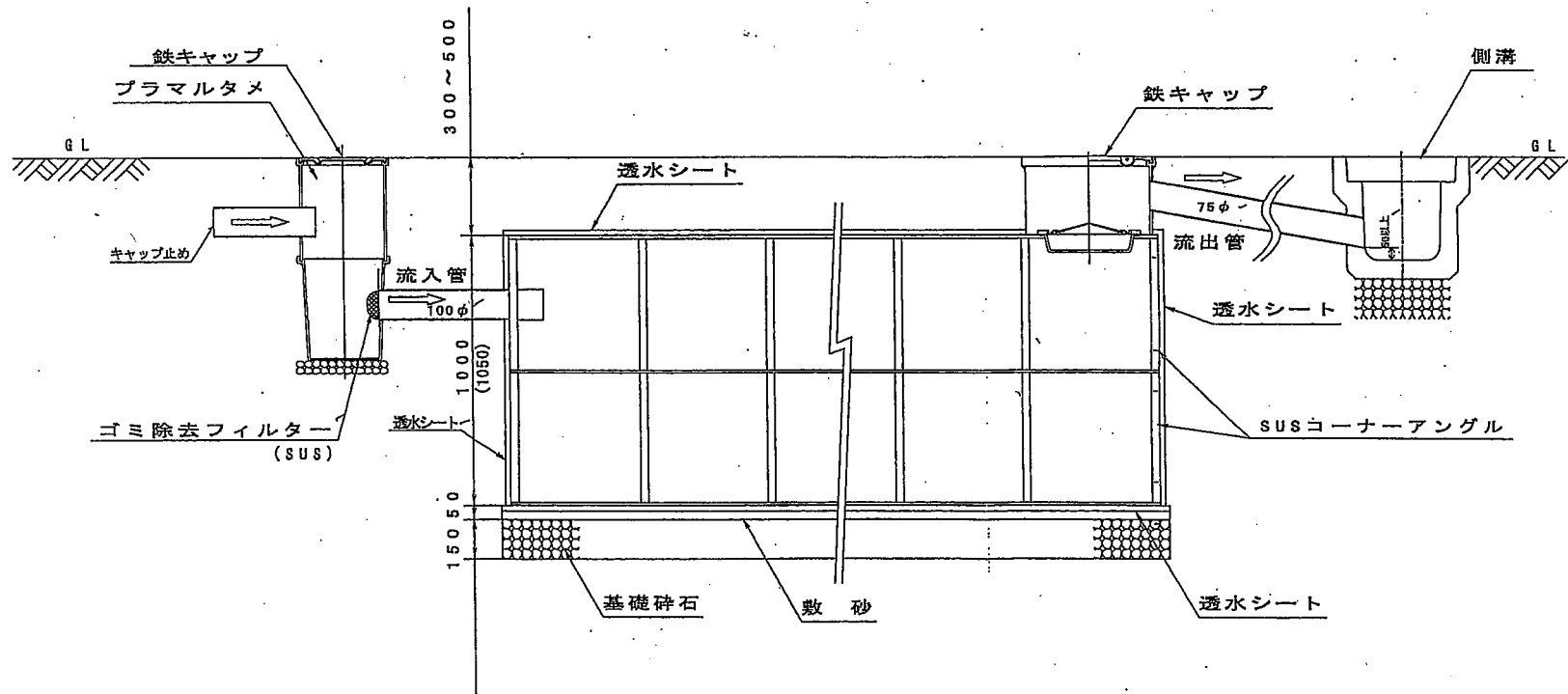


貯留量 $2.0 \times 2.0 \times 1.31 = 0.1 \times 0.1 \times 2 \times 1.31 = 5.2 \text{ m}^3$
 たい砂容量 $0.6 \times 0.6 \times 0.135 = 0.048 \text{ m}^3$

浸透人孔設置時施工標準図



樹脂製浸透ブロック(参考)設置時施工標準図



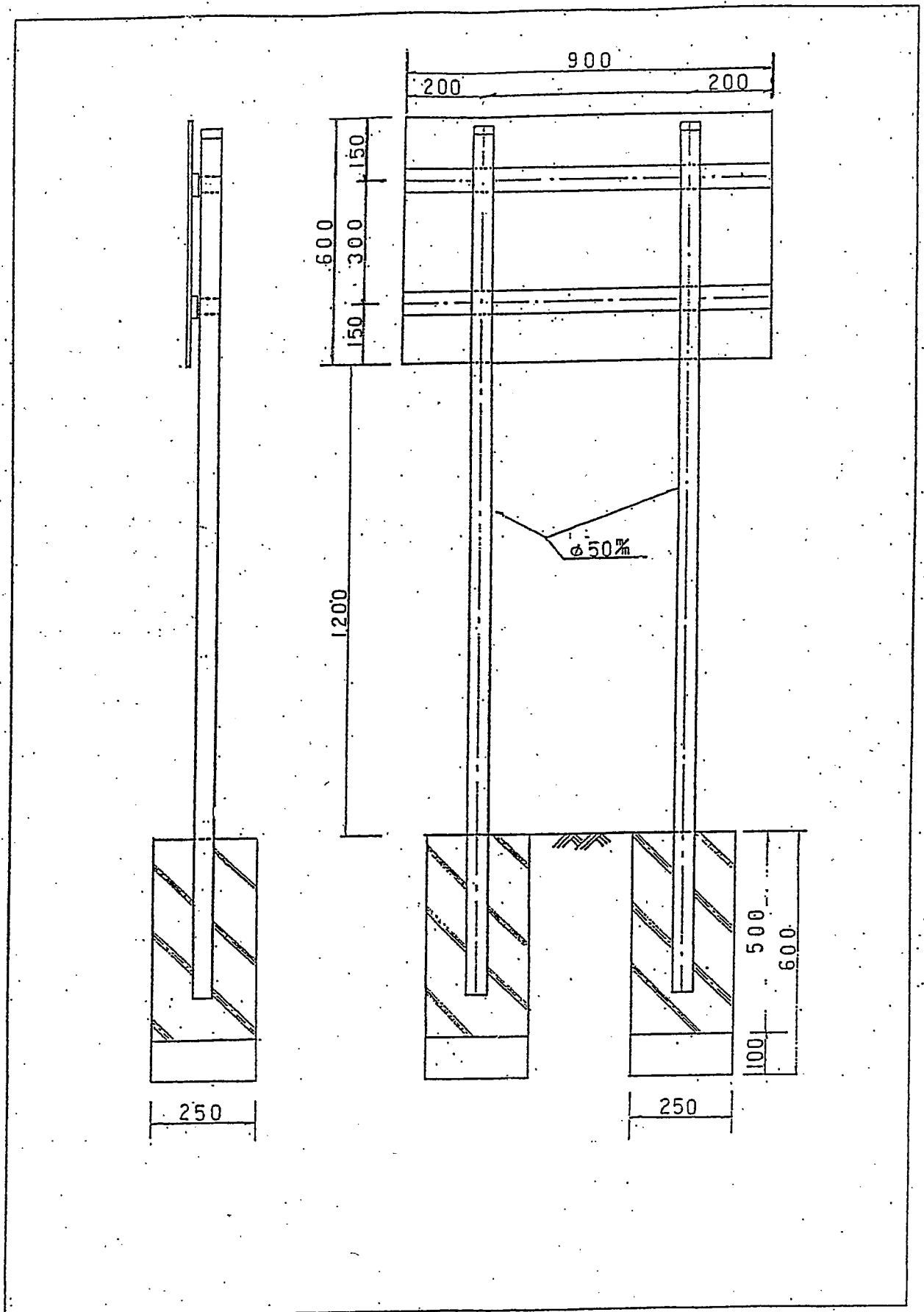
専用調整池看板

900mm				
180	120	210	150	240

25	600	90	名 称	(例) 大堀川○岸第○○排水区○○○調整池 (例) 大津川○岸第○○排水区○○○調整池				
		70	所 在 地	柏 市		番 地		
		70	調整池諸元	容 量	m ³	敷地面積	m ²	
		70		深 さ	m	集水面積	ha	
		70	管 理 者	(例) 柏 市				
		70	連 絡 先	(例) 柏市土木部 TEL 04-7167-1111				
		160	この施設は、開発区域に降った大量の雨水を一時貯留して下流への流量の増大を抑制し洪水の被害を防止するためのものです。調整池についてのお問い合わせ又はお知らせがありましたら上記の所にご連絡ください。					

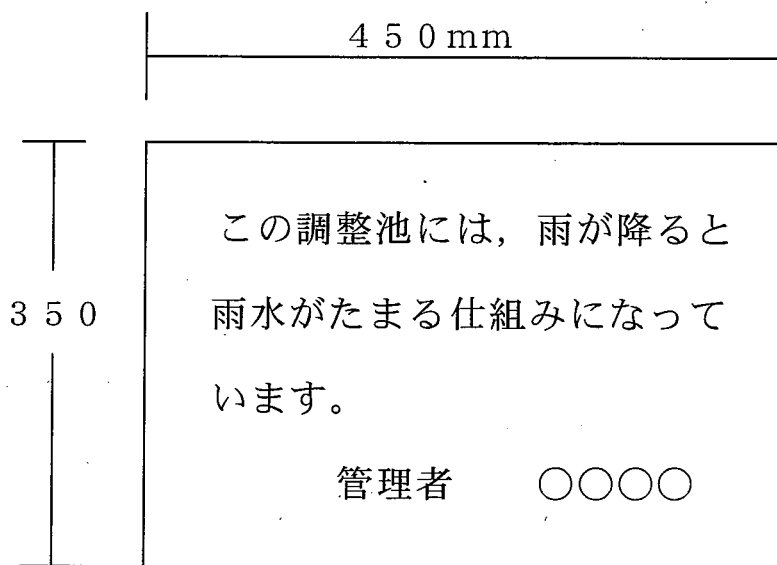
※ 看板の材質は、ステンレス・樹脂等の風雨に耐えるものとする。

第4号様式の2調整池看板詳細図



第4号様式の3

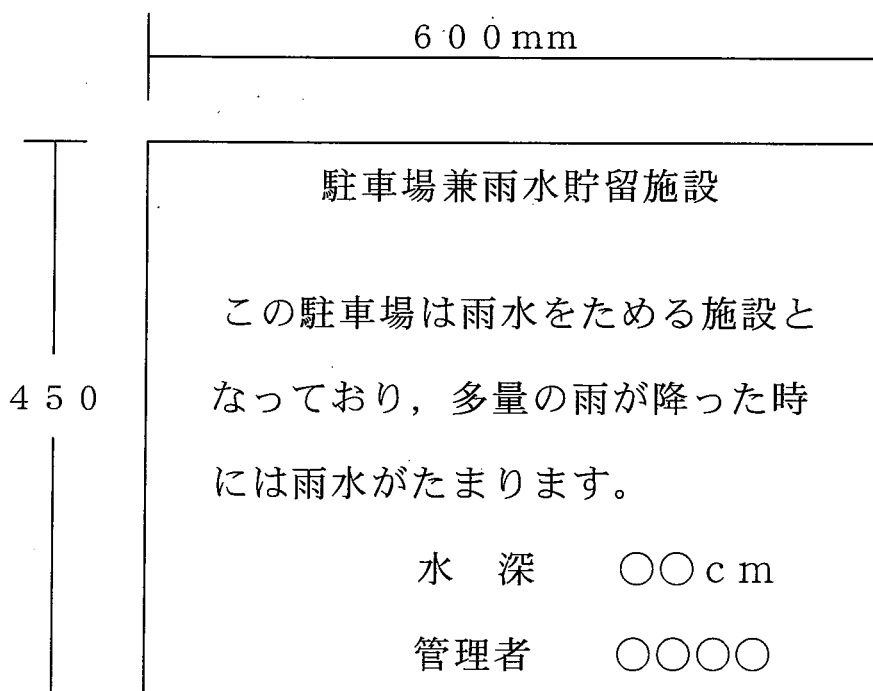
事業者管理調整池看板



※ 看板の材質は、ステンレス・樹脂等の風雨に耐えるものとする。

第4号様式の4

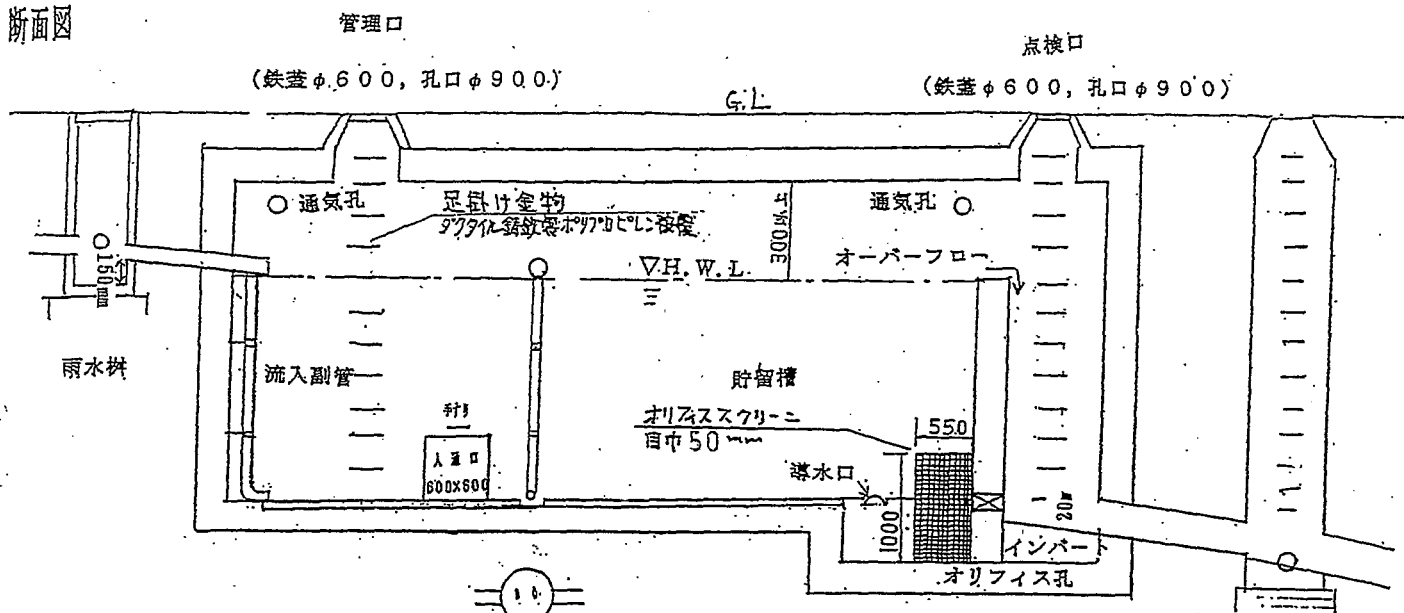
事業者管理駐車場兼用調整池看板



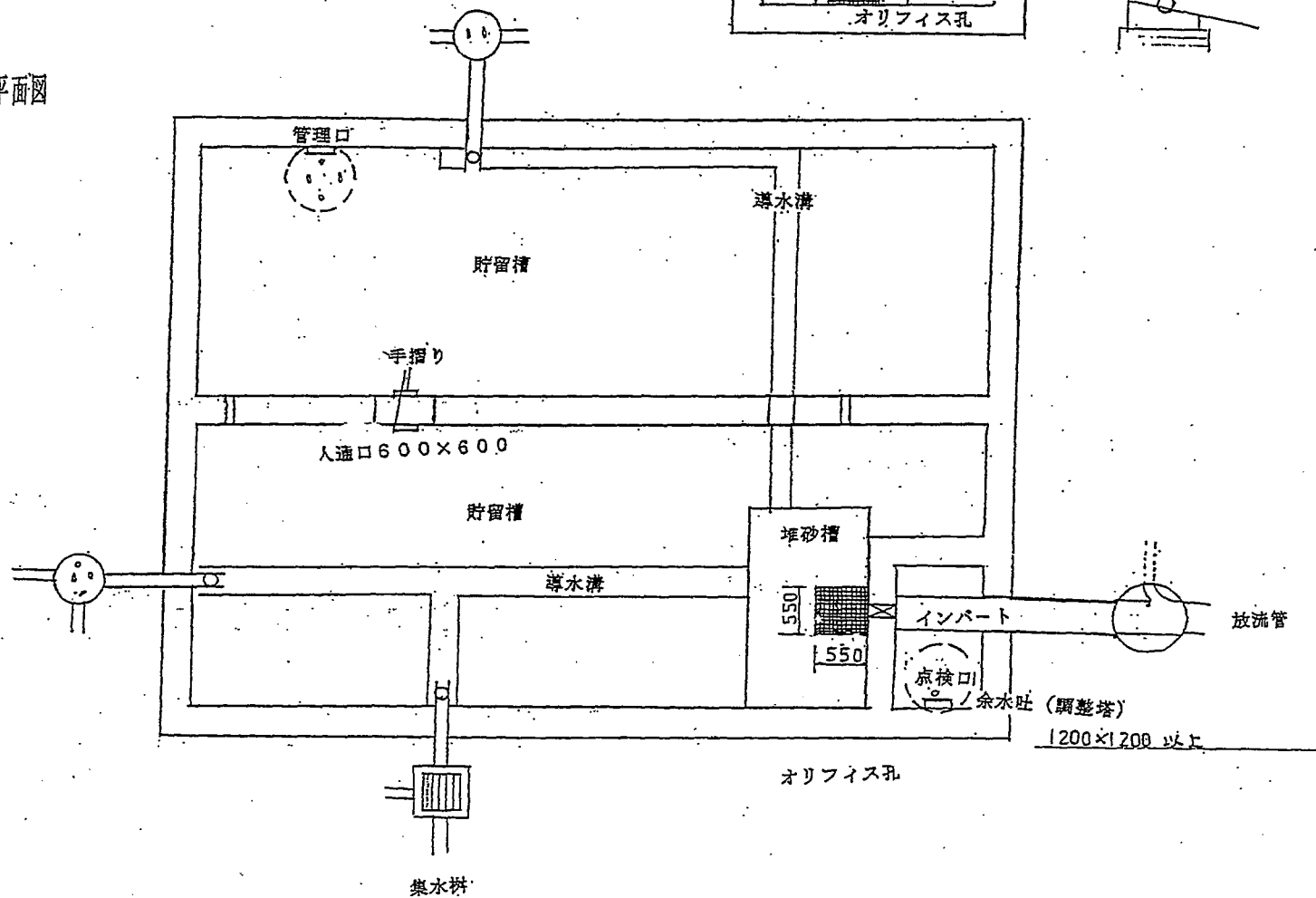
※ 看板の材質は、ステンレス・樹脂等の風雨に耐えるものとする。

地下式調整池参考図（自然流下方式）

断面図



平面図

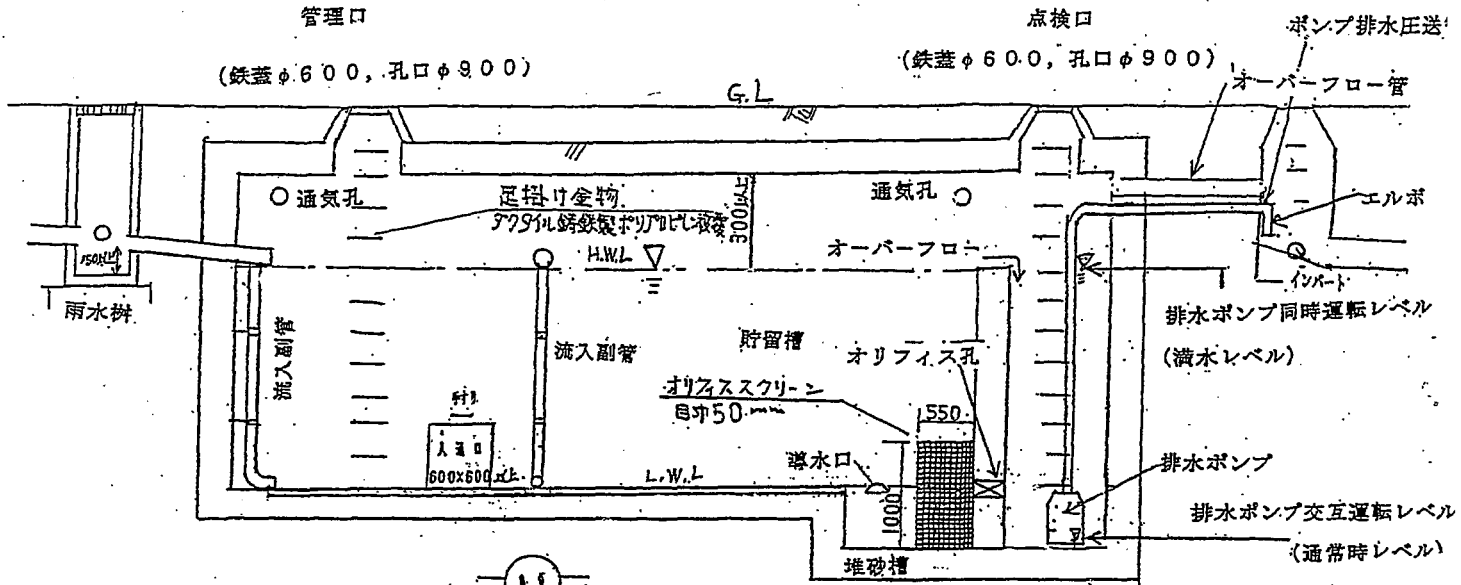


オリフィス孔（計算結果がφ50以下の時はφ50とする）

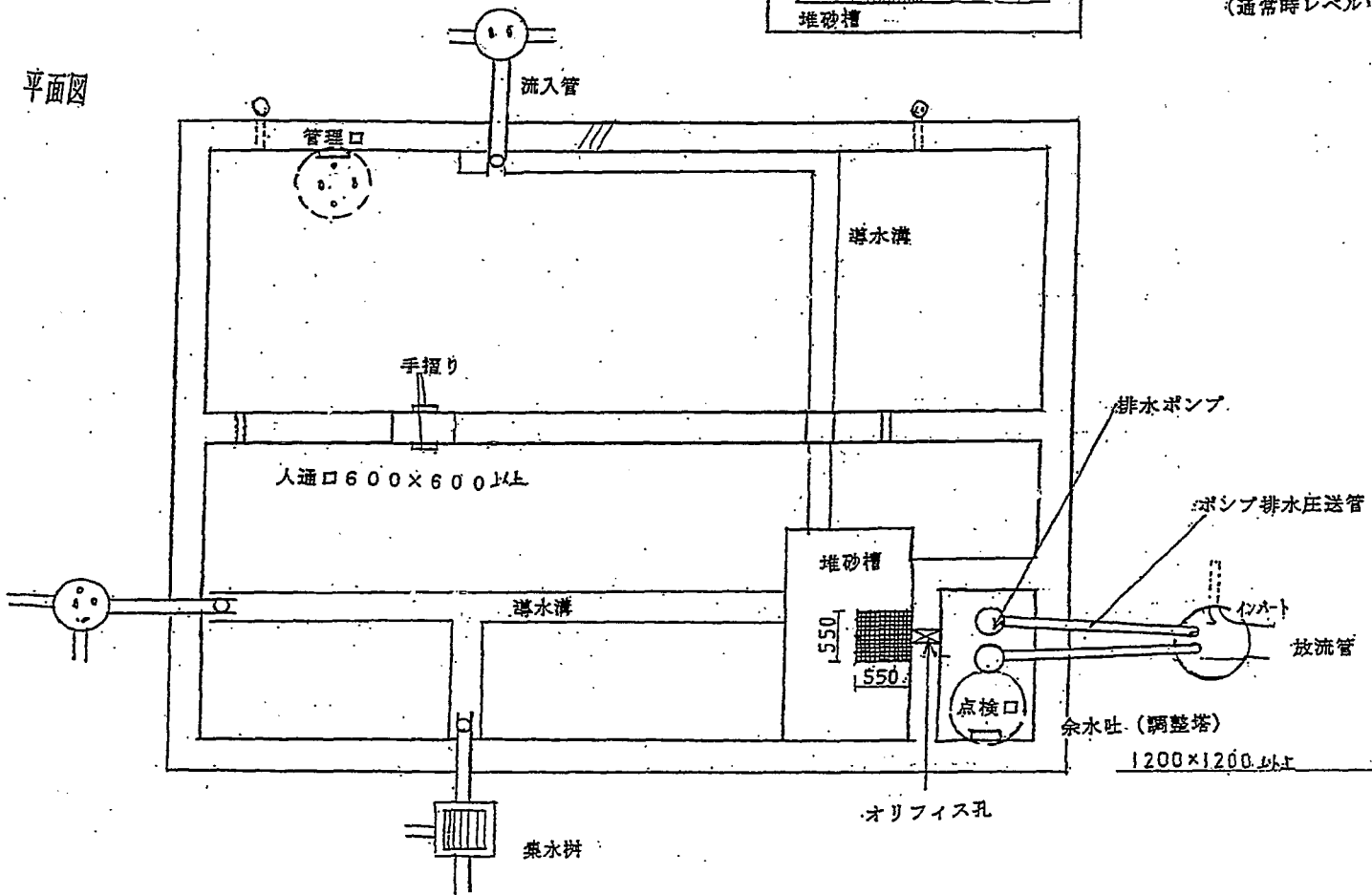
流入管は最少でも2が所以上とし、区域面積に応じて管径、数量を決定すること。

地下式調整池参考図 (ポンプ排水方式)

断面図



平面図



オリフィス孔 (計算結果がφ50以下の時はφ50とする)

流入管は最少でも2か所以上とし、区域面積に応じて管径、数量を決定すること。

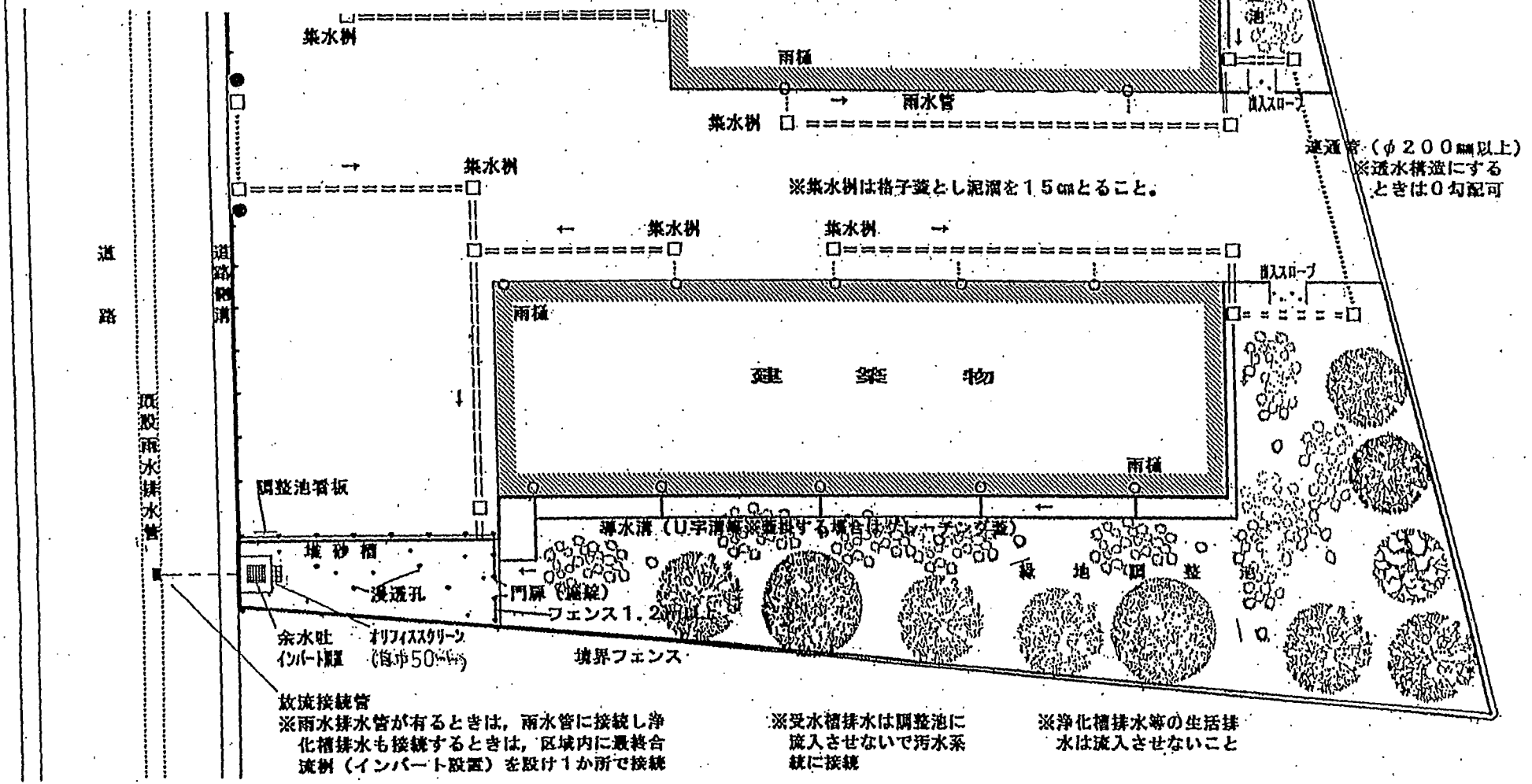
ポンプ排水圧送管は満水時を考慮して2本にすること。

緑地兼用調整池等参考図

※緑地兼用調整池は貯留水深（H.W.L）は30cm未満、余裕高を20cmとし、地面との段差を50cm未満とすること。

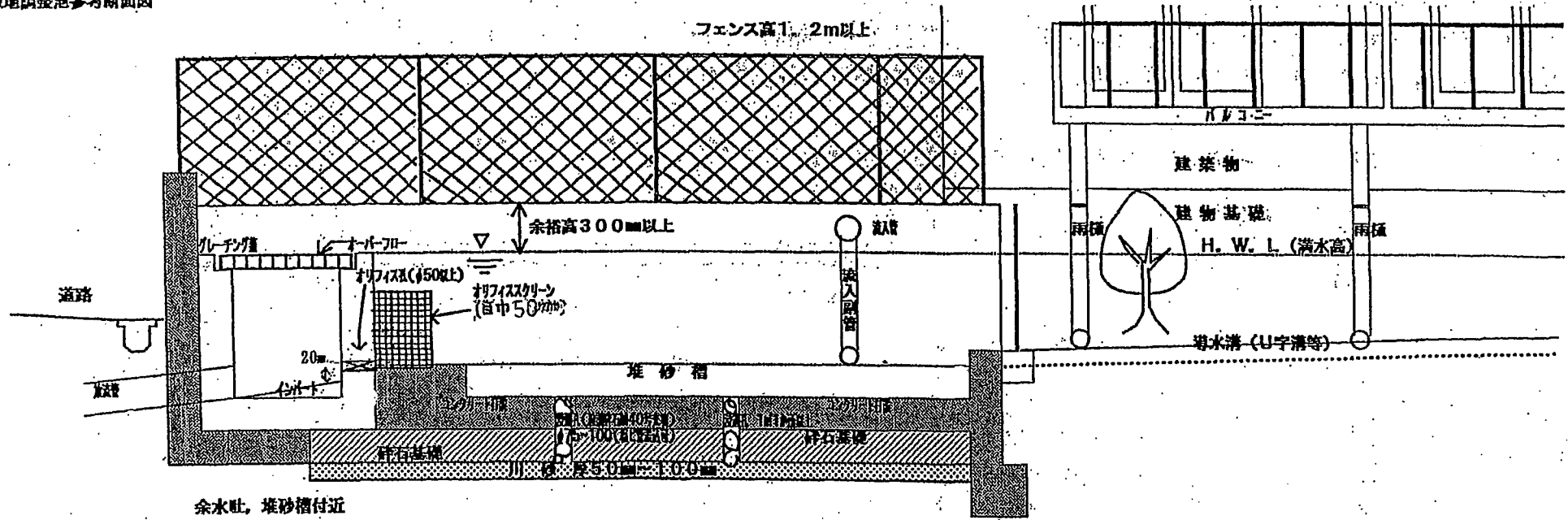
※貯留部分を土間にするときは最上流の流入管口から調整樹（余水吐樹）前面のたい砂溝まで導水溝（U字溝等）をもうけること。導水溝の管底高はオリフィス孔の管底高より低くしないこと。

※調整樹、たい砂溝周りは状況に応じて転落防止策を考慮すること。

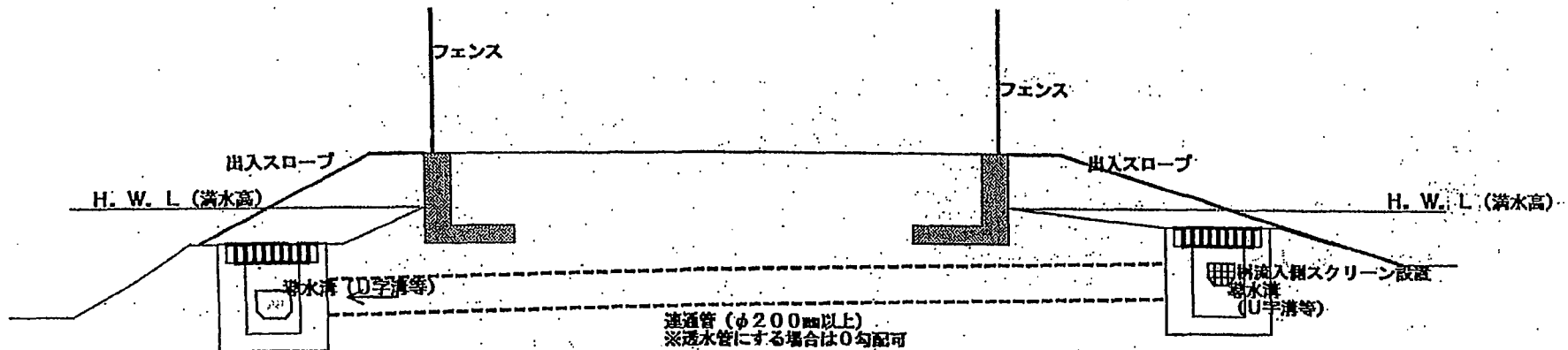


緑地調整池参考断面図

31

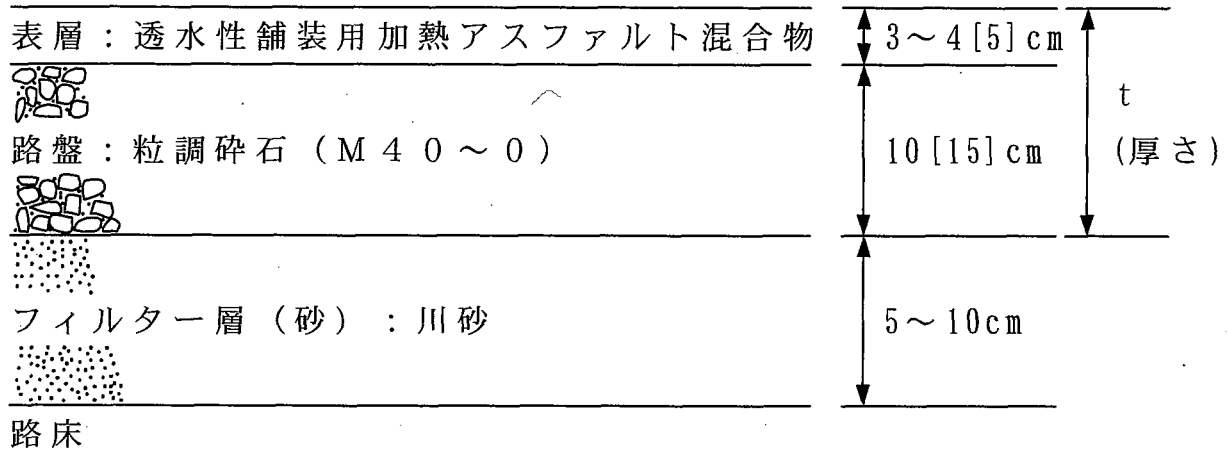


余水吐、堆砂槽付近



連通管付近

透水性舗装標準構成図



厚さは歩道表示

車乗り入れ部は[]で表層5cm以上，路盤15cm以上で施工すること。

路盤面のプライムコートは透水機能を阻害するので施工しない。

$$\text{容量} = t \times A \times 10\%$$